

府中市総合教育会議会議録

1 開会の日時

平成29年9月26日（火） 教育委員会 会議室
（平成29年度） 15時30分 開会

2 出席委員

戸成市長、平谷教育長、田中委員、骨田委員、古川委員、高橋委員
（6人）

3 委員以外の出席者

石川総務部長、浅野人事秘書課長、皿田人事秘書課主幹、
栗根教育部長 大和総務課長 門田学校教育課長
谷口生涯学習課長 長岡総務課主幹 大川学校教育課主幹
近藤総務課庶務係長

4 傍聴者

1名（報道機関4社）

5 協議事項

- （1）府中市教育大綱の進捗状況について
- （2）平成30年度の取り組みについて

16時55分 終了

平成 29 年度総合教育会議

戸成市長 それでは、平成 29 年度の府中市総合教育会議を開催いたします。

今日の会議では、教育大綱の進捗状況について、そして、来年度の教育関連の取り組みについてを本格的に協議いたしたいと思いますので、活発な御意見をよろしくお願いいたします。

早速ですが、協議に入ります。府中市教育大綱の進捗状況ということで、実績や現在の状況を踏まえて来年度の教育関連の取り組みについて協議いたしたいと思います。教育委員会事務局から重要だと思われる事業について説明してください。まずは、平谷教育長からお話をいただきたいと思います。

教育長 それでは初めに、私から府中市教育大綱の進捗状況、あるいは今後の方向等について主だったものの概要をお話させていただきまして、詳細については各担当課長から説明差し上げたいと思います。

まず、私からは大きく 3 点について説明させていただきます。

まず 1 点目は、大綱の縦 1、小中一貫教育を推進し、たくましく生き抜く力の養成というところにつきまして、全体をひっくるめたような形でお話をさせてもらおうと思います。

その中で、この 4 月に、新たな小中一貫教育制度である義務教育学校と、そして併設型小中学校に移行をしたわけでございますが、その後の状況とか取り組みを中心にまずは説明いたします。

この新たな教育制度への移行というのは、御承知のとおりですけれども、より充実した学びの環境というものを子供たちに届けたいと、それができる制度だと、このように考えてこの 4 月にスタートしたわけでございます。義務教育学校に 2 校移行しましたけれども、この 2 校につきましてはこれまでの 7 年間、あるいは 9 年間、一体型での取り組みをしておりますので、それがベースにありました。したがって、4 月以降の学校のいろいろな姿には急激な変化はございませんでした。児童・生徒、特に後期課程の生徒の自覚とか、あるいは主体性とか、また教職員が義務教育学校の職員として効果的な学校行事、あるいは

学習指導、こういったものを工夫しようと、こういった意欲は高まりつつあるんだと、こういったことは聞いているところでございます。

また、併設型に移行しました2つの学園、府南学園、上下学園につきましても、学園という機能を高めるために、学園長を中心とした学園経営会議、これを継続的に開催しておりまして、学園や地域の特徴を踏まえながら、9年間の教育目標、要するに学園目標ですけれども、これを設定しまして、連続性を意識した教育実践というものを行っているというところなんです。そういった中で、2学園とも中学校教員が小学校に乗り入れをして授業を行うとか、あるいは小学校と中学校の合同行事を行うとか、また教員の合同研修なども取り組んでいるといったところがこの上半期の状況でございます。

そういった中で、先月公表されました全国学力テストの結果においては、市内の平均が全国平均を2から6ポイント程度上回っておりまして、今後の勢いにもつながるような結果も今回示してくれたと思っているところでもあります。

また、不登校児童・生徒の状況ですけれども、平成16年度、これは小中一貫教育がスタートした年でございますが、この年をピークにそれ以降は減少しておりました。およそピーク時の3分の1になった状況にあったわけですけれども、25年度、26年度、27年度、このあたりは若干とは言え、増加傾向にあったわけです。昨年度、そして本年度と、そういった数が再び減少傾向を示してきているといった状況でございます。また、こういった結果の数値に一喜一憂するのではなくて、やはり着実に個々の児童・生徒の状況を踏まえながら指導や支援を進めていく必要があると、このように今後を考えているところでもあります。

そういったことから、今後の方向では、まだまだいろいろな取り組みをしていく必要がありますが、例えば6・3制といった従来の学校制度を踏まえた指導の区切り、これに加えて子供たちの状況に応じて、例えば4・3・2で区切るとか、あるいは5・4で区切る。こういったものも今後意図的に構成して教育効果を求めていくということが必要ではないかと考えておりますし、また5・6年生と7年生のつながりの時期、要

するに中1ギャップの解消に向けて教科担任制などの指導の工夫とか、あるいは専科教員の配置、こういったさらなる充実も図っていく、あるいはこの9年間を見据えての学校行事等のあり方も引き続き検討の必要があるのではないかと、このように考えております。

また、市長さんが強い思いを持っておられますが、英語教育の充実につきましても、現在ALTが4名体制で各校への指導・支援、あるいはグローバルキャンプの実施、そして英検チャレンジ、こういったものに取り組んでおりまして、学力調査でも成果もあらわれているといったところも感じております。

また、この英語教育につきましても、現在府中明郷学園では英語教育の特色あるカリキュラムとして、グローバルコミュニケーション科という、こういったことも試行実施しております。その成果等も踏まえ、今後他の学園とか学校にも広げていきたいと考えているところもございます。

また、あわせてこの英語教育について触れると、新学習指導要領で来年度から小学校で先行実施され、32年度からは全面实施になりますけれども、3・4年生の外国語活動、そして5・6年生の英語科については、最終的には現在よりも35時間授業時間数が増えます。そういった中で、現在の学校の現状を踏まえますと、授業時間の確保、35時間増えるという時間の確保をどうするのかというのが大きな課題になっているところがございます。このことは、府中市だけではなく、全国的な問題にもなっていますけれども、それにどう対応するのかという、一つの案としては2学期のスタートを、例えば8月下旬に持ってきて、少し夏休みの期間を短くして早目にスタートするというのも一つの案としては検討しているところではあります。そうするとどうしても暑い時期のスタートになるということで、例えば空調設備などの学習環境の整備も今後必要になってくるのではないかと、そんなことも考えているところではございます。

また、英語教育とともに市長さんの思いが深いところの、道徳教育の充実につきましても、来年度から小学校で特別の教科道徳、これが御承知のとおり始まりまして、先月には教科書も採択したところがございます。道徳教育については、これまで

も各校、地域教材とか地域人材も含めて、適切な資料等を活用しながら進めておりますが、今後は教科書を使用する、あるいは評価も行われるということになりますので、これまで以上に充実が図られるものと、このように考えております。もちろん、子供たちの豊かな心の育成については、道德の授業だけではなくて、現在府中市が進めておりますコミュニティスクールの活動等も含めて、全ての教育活動を通じて行っていきたいと、その中で子どもを育てていきたいと考えております。

少し1点目から長くなりましたが、2点目は伝統と文化の継承の中の、備後国府を生かしたまちづくりについて若干説明します。昨年10月に備後国府跡が国の史跡として指定されまして、1年が経過するわけですが、さまざまな機会を通じて市民の方への広告等を行っております。現在のところ史跡自体の見える化ということが非常に難しい状況がありますので、市民の方への関心もなかなか高まりにくいといった現状がございます。そういった中で、ちょっとフライングかもしれませんが、マスコットキャラクターの「国府まる君」「国府ひめちゃん」ですね。この着ぐるみも完成間近でございますので、今後そういったものもしっかり活用しながら、広報も進めてまいりたい、このように考えております。

また、保存活用計画についても今年度、そして来年度の2年間で策定するという予定で現在進めているといったところでございます。

大きな3点目ですが、縦3で学び合える地域社会の形成の4番目です。スポーツ活動の充実について若干説明させていただきます。平成28年3月に策定しました府中市スポーツ推進計画、これに基づきまして大学等とも連携しながら、幼児期からの体づくり等の講座とか、あるいは指導者養成の講座などを進めているところであります。

スポーツ関係者等の非常に関心の高いスポーツ施設の環境整備につきましては、厳しい財政状況の中で、例えば本年度は桜ヶ丘グラウンドの整備など、補助金等を活用しながら進めているといったところはございます。こういったスポーツ施設の環境整備につきましては、今後も財政状況等を踏まえつつ、早期の検討も必要ではないかと、このように考えているところで

ございます。

私からは以上で、詳細については各課長のほうから説明いたします。

戸成市長
門田課長

どうぞ。

それでは、学校教育課から説明いたします。

先ほど教育長が申し上げたとおり、学力調査の結果をもう少し細かく見てみますと、全国学力調査の結果の中でもとりわけ中学校3年生、あるいは義務教育学校9年生の定着度、これが高くなっているところが府中市の特徴として挙げられます。全国的には学年が上がるごとにだんだん下がっていくところが、逆に府中市は伸びているという傾向でございます。

小中一貫教育の目標は、義務教育9年間を過ごす子供像を市民と共有する。そういう子供たちを輩出するということですので、そういった意味では一定の成果があらわれていると受けとめています。

しかし、解決すべき課題も同時に捉えております。今中学校3年生のほうが高くなっていると言いましたけれども、小学校段階の伸びがもっと高く上がれば非常に安定してくるだろうと、そういう面では小学校教育の定着というところを課題視しているところでございます。

これらの課題に取り組むために、小中一貫教育の制度の中でも義務教育学校、この制度を今年度から採用しましたがけれども、昨年度全国で26校、今年度は全国で48校が義務教育学校になっているという状況で、そのうちの2校が府中市でございます。この義務教育学校設置の最大のポイントが、新しい小中一貫教育制度に取り組むのであれば、その地方自治体には教育課程の編成権を国が権限委譲する、こういう趣旨のもとに取り組みを進めることができる、ここに最大のポイントを見たいと考えております。つまり、学校の先生方にこれまでの指導の努力、工夫、これにつけ加えて学習内容や配列そのものを入れ替えてでも府中市の子供の学力定着・向上させていこうと、こういった画期的な編成権が、いわゆる教育課程の特例として付与された物でございます。

したがって、これからは府中市の子供に学んでほしい府中市の学習内容、これらを取りそろえた独自の教科を府中市の裁量

で開発するといった道も開かれております。そうなっていきま
すと、府中市教育大綱の主要施策として掲げております、豊かな
心の育成やグローバル教育、そしてこれに即して展開する道
徳教育や外国語教育、これらの全てが教育課程の特例のもとに
府中市の独自のカリキュラムに編成することが可能になる。こ
ういうものを手に入れた府中市でございます。30年度以降、
それらを実現できるようなカリキュラムの開発、そしてその実
施というところに着手していくというところでございます。

さて、今度は豊かな心の育成に説明を移します。

道徳教育、これは今年度、先ほど教育長が申しましたけれど
も、小学校の教科書採択を経ておりますので、新教科としての
位置づけにステップアップしていくという状況になります。道
徳教育では、資料を活用することは当然でございますけども、
現在の府中市の道徳教育の特徴として際立つことをお伝えし
ますと、学校の先生方が道徳の授業をもっと、子供たちの心に
響くものにしたいという意欲から、コミュニティスクールの教
育資源に活路を求めていくと、こういった状況が見られており、
地域人材が道徳教育、道徳の授業に参画するケースがふえてお
ります。その結果として、同じ地域の大人と子供が道徳的な学
びを共有するといった効果が生まれてくると思います。このこ
とは、府中市の道徳教育の特徴としてアピールできるものと思
えているところです。

また、このような風通しのよさが学校の敷地を超えて地域と
の間に生まれていくといったことも、生徒指導上の課題の減少
につながるということを抑えています。

続いて、グローバル教育の充実について説明いたします。

昨年度からALT4名体制で取り組んでおります。純粹に考
えれば、各中学校に1名の単独配置が実現しているということ
になります。そのように見ると、全県下、あるいは全国でもか
なり破格な配置プランと受けとめております。府中市では、こ
の配置構成をさらに学園全体に拡大し、保育所や小学校低学年
段階からの英語教育に取り組んでいるところでございます。

具体的に何が変わるかと申し上げますと、児童・生徒1人当
たりのネイティブスピーカーとの接触時間が増えています。こ
れは効果があります。さらに授業時間に限らず、学校施設にイ

ングリッシュルーム、イングリッシュオンリーの時間をつくる。そういうルームを設置するとか、1泊2日のグローバルキャンプといった企画を実施することと同時に推進しております。

とりわけ今年度は府中市グローバルキャンプでICTを活用した海外とのリアルタイムな交流活動をスカイプ通信で実践しましたけれども、この交流活動は英語を活用せざるを得ない場を必然的に生み出す教育環境として、その効果を広島県教育委員会の担当者がそこで見てすぐに理解して、1カ月後に広島県全域でウェブ会議システムという名称で、全県下に紹介するといった取り組みに広がっております。

府中市の取り組みが全県下に広がっていくという、このきっかけをつくってくれたのは、実はALTたちです。4名のALTと府中市から帰国したALTたちが現地で待っていて、ウェブ通信を可能にしたということがございます。そこで改めて、ALTの配置効果ということ、今年度の学力調査でも見ますと、私たちもなるほど見たんですけど、中学校2年生で基礎・基本定着状況調査の英語において、リスニングとスピーキングの結果は、ともに県平均を上回っております、とりわけスピーキングについては、県内のトップクラスに位置づいております。数値で言いますと、平均値が10ポイント以上の開きぐあいでは推移しているといった状態でございます。これは、府中市の子供たちが英語に対して意欲的に取り組んでいる評価ともなりますので、この意欲をさらに今度は実力とか、資格といった域まで高めたいと考えております。そのためにも、英検に勇気を持って挑戦してもらいたいと、こういった状況で現在働きかけているというところでございます。

現在、次期学習指導要領の改訂が進められる中で、幾つかのキーワードが議論されておりますけれども、その一つに「社会に開かれた教育課程」という言葉があります。これはどういうものかといいますと、学校で学ぶ知識は社会に通用し、社会を支える、世界を幸せにするものであるということ、子供たちが実感できるような学習プロセス、これを重視する姿勢といてよいと考えています。実はこのことは、コミュニティスクールの中核にある考え方です。現在府中市では、コミュニティスクール全校指定が間近に迫っております。それに伴い、さまざま

な形で実に多彩なコミュニティ実践が、かつてはなかったにぎわいとして報道されるに至っております。数値で申し上げますと、各校に15名の学校運営協議会委員が任命されます。10校に広げれば、府中市内に150名の委員が創出されるということになります。150名という数は貴重だと考えております。この150名の委員が、どのような子供に育てたいのかといった熟議に常に加わっていただける、こういった強みを府中市は持っていると思っております。

以上、学校教育課から4項目の取り組み、進捗状況等、今後に向けての取り組み課題について説明いたしました。府中市の子供たちを府中市の教育資源力を活用してどう育てていくか。この1点にそろえる形で我々は教育改革を断行し、また学校制度を整えていくといった取り組みを進めてまいりましたが、ここに来て相乗効果が生まれつつあるかなというふうに捉えております。

以上でございます。

戸成市長
大和課長

続いて。

それでは、続きまして総務課から説明させていただきます。

まず、お手元の資料の大きな2番、伝統と文化の継承というところで、備後国府づくりを生かしたまちづくりというものについて実績・現状、今後の予定等につきまして説明させていただきたいと思っております。

まず、備後国府跡にかかわる発掘調査につきましては、昭和42年度に始まり、本格的には昭和57年から広島県教育委員会による10年間の確認調査が開始され、平成2年より府中市においても調査事業を引き継ぎ、現在まで調査を進めてきたところでございます。

また、これまでの備後国府跡に関連した調査の成果を総括した報告書を刊行等いたしまして、その一部でありますツジ地区、また金龍寺東地区につきまして、国府を構成する多様な遺構、遺跡として認められることにより、また地域住民の皆様の深い御理解のもと、平成28年6月17日に国の文化審議会に置きまして史跡の答申がなされ、同年10月3日、約1年前になりますが、晴れて備後国府遺跡跡として決定いただいた経過がございます。

この指定は、全国的には18番目の国府史跡指定となります。政庁でございますが、確認にはまだ至っていませんが、指定場所につきましては、居住市街地に位置いたしておりまして発生から12世紀、この間約500年間国府の成立から衰退までの変遷など古代の実態を知る上で極めて重要なものでございます。

この史跡指定を受けたことで、国の補助、事業費の約2分の1を受けることができ、より充実した遺跡の保護・活用を図ることが可能となるところでございますが、そのためには先ほど教育長の説明の中でもありました、今後の具体的保存活用計画の策定が必要となってまいります。本年度平成29年度と来年度平成30年度の2年度間でこの保存活用計画の策定を行う予定といたしております。第1回の策定委員会につきましては、11月中旬に開催すべく、現在準備を行っている状況でございます。また、今年度より指定地区の環境整備、遺構の保存活用を図るため、計画的に用地取得を行う中で、今後の史跡の見える化の推進を図ってまいりたいと考えております。

さらには、皆様方も既に御承知かと思いますが、はじまりの広場、文化センターそばにあります。鳥居地区における古代山陽道と、国府中心部への分岐路の史跡が確認されていることに伴いまして、国史跡備後国府跡としての追加指定を目指すべく、調査報告書の作成に取り組むことといたしております。

まだまだ、備後国府を生かしたまちづくりとなる普及啓発等の推進が十分であるとは言えませんが、普及啓発する事業として本年4月にはハンディタイプの散策マップ、備後国府を歩こうマップの刊行、また現在備後国府マスコットキャラクターとして着ぐるみの作成を行っているところでございます。先ほども御紹介がありましたが、今月末には2体の着ぐるみ、国府まる君、国府ひめちゃんが完成予定となっております。今後備後国府のPRをしっかりと図ってまいりたいと考えております。

総務課からは以上でございます。

戸成市長
谷口課長

はい、いいですか。

それでは、生涯学習課のほうから御説明させていただきます。
お手元の資料3、学び合える地域社会の形成の中の4番目で

ございます。スポーツ活動の充実について御説明させていただきます。

まず、当市のスポーツ活動の推進におきましては、昨年3月に第4次府中市総合計画や府中学びプランを具体化するための計画として位置づけられる、「府中市スポーツ推進計画」を策定いたしました。

この計画の中に挙げました、『文化・スポーツ活動を楽しめる府中』の実現を目指しまして、4つの基本目標、1つ目が全ての市民がスポーツに親しみ、楽しめる活動の推進。2番目に競技スポーツの推進。3番目にスポーツ活動を支援する環境の整備。4番目にコミュニティ・スポーツ推進によるまちづくり。この基本目標に基づきまして、継続してスポーツの推進に取り組みたいところでございます。

計画元年になります28年度の取り組みについて具体的に申し上げますと、まず全てのスポーツの基本となる体幹トレーニング教室を生涯学習センターにおいて開設いたしまして、市内の保育所や幼稚園を巡回しての指導実施にも取り組んだところでございます。

また、昨今の子供の状況を見まして、子供の外遊びの促進を目的といたしましたティーボールの普及に取り組み、市内の保育所や幼稚園を巡回して指導実施に取り組みました。また、体育協会と連携して、ティーボールティーチャー、これは指導者でございますが、この養成にも取り組みました。また、平成大学の全面的な支援を受けまして、スポーツ指導者養成講座を連続講座として拡充させて立ち上げたところでございます。また、TAMフェスタにおいて障害者スポーツ体験のイベントとか、学びフェスタにおける走り方教室など、市民が気軽に参加できるスポーツイベントの開催にも取り組んでまいりました。

また、平成26年度からプロバスケットボールチームであるドラゴンフライズのプレシーズンマッチが民間有志によって開催されてきたところでございますが、平成28年度は市との共催事業といたしまして、実行委員会のメンバーとして企画運営にもかかわらせていただき、府中市の子供たちがプロのプレーを間近で見たり、直接指導を受けられる機会の確保に努めたところでございます。

また、スポーツを通じての市民の健康づくりの推進や、世代間交流の目的でNHKのラジオ体操を協和スポーツグラウンドに誘致したということもございました。基本的に、こういった28年度の行事・取り組みを29年度も継続して取り組んでいるところがございます。多少28年度と違うところを申し上げますと、特にスポーツの推進においては、正しい知識を持った指導者を養成するということが重要な役割を果たすと考えておりますので、今年度も平成大学の協力を得まして、スポーツ指導者養成講座をさらに回数等をふやして開催したいと思っております。

また、市民が気軽に参加できるスポーツイベントを今年度も学びフェスタで開催する予定にしております。また、7月にはドリームベースボールを上下運動公園で開催いたしまして、多くの方に御参加いただいたところがございます。

また、今年度の目標としまして、障害者スポーツの部分にも少し取り組んでいきたいと思っております。現在健康福祉部と連携してその事業に取り組みを始めているところがございます。

また、スポーツの推進においては、当然ハード面の整備ということもございます。先ほど教育長のほうの御説明にもございましたが、なかなか厳しい財政の中でこういったものを進めていくこととなりますので、今年度スポーツ振興くじ助成金の交付を受けて桜ヶ丘グラウンドの改修を行う予定ですが、こういった助成金の交付、補助金の交付なども研究しながら取り組んでいきたいと思っております。来年度についても、このスポーツ推進計画に基づいて、スポーツイベントの開催や指導者の養成等の取り組みを継続して行っていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

大和課長

それでは続きまして、大きい4、安全・安心環境づくりの項目でございます。項目の1の学校施設の整備の充実ということにつきまして説明させていただきます。

学校施設につきましては、この間特に、耐震化事業について事業を進め、教育環境に充実を推進してきたところがございます。このことによりまして県内市段階では、耐震補強工事につ

きましては、平成25年度にいち早く府中市においては事業完了となったところでございます。

さらには、これまで国の進めるエコスクール化の推進として、国にかわって天井扇の設置、太陽光発電機器の設置等も行ってきたところでございます。

また、生活様式の変化から洋式トイレが多く普及するようになっております。このことにより、学校におけるトイレの洋式化等への改修を図る事業としまして、まず平成28年度より、旭小学校、南小学校につきまして、財源確保を含め、設計等の事業に着手いたしたところでございます。現在、平成29年度の状況でございますが、旭小学校につきましては11カ所、南小学校につきましては、4カ所の改修を行っており、ほぼ10月中旬には両方とも完了仕様となる予定の状況となっております。さらに、栗生小学校につきましては、現在改修に向けての設計を行っております。平成30年度長期の夏季休業中に改修を行う予定といたしております。

こうした施設の整備を行っている状況ではありますが、耐震化を図った各校舎、また体育館には、昭和40年代から昭和50年代に建設されたものが多く、施設及び設備には内装の塗装剥離や、床材の剥離、プール等の漏水、電気設備の不具合等、老朽化等が顕著なものがあり、早期の改修が必要となっている状況でもあるところでございます。

また、災害時の安全対策として、ガラスの飛散防止などの非構造部材の耐震化を行い、安心安全な環境整備が求められているところでございます。

さらには、近年の温暖化等による急激な気候の変化等に伴い、夏季の気温の上昇状況によりまして、教室内にも気温、湿度等の上昇状況は際立って学習環境面において好ましいものではなく、エアコンの設置については財政的な課題はあるものの、児童・生徒の学習環境の確保の観点からは喫緊の課題であり、設置・導入につきましては効率的な試行を含め、改修計画に反映を図る必要があると考えているところでございます。

以上でございます。

谷口課長

それでは続きまして、生涯学習課のほうから説明させていただきます。

4番目の、安全・安心な教育環境づくりの中の3つ目でございます。活用しやすい社会教育施設づくりについて御説明させていただきます。社会教育施設と合わせて、社会体育施設のことも含めて御説明させていただければと思っているところでございます。

社会教育施設については、公民館・集会所等市内にたくさんありますが、これが全体的に老朽化しておるところでございます。こういった中で、環境改善に計画的に取り組んでいるところでございます。また、社会体育施設につきましても、やはり財政が限られている中で取り組んでいくということで、使用頻度の高い中核になるような施設を中心的に取り組んでおるところでございます。

昨年度28年度の体育施設で申しますと、B&G海洋センターの天井部分の修理でございますとか、雨漏りの修理というようなところに取り組みましたし、また府中市立総合体育館や中須グラウンド等の修繕に取り組んでいるところでございます。

また、社会教育施設で申しますと、大きなところではクルトピア明郷でございますとか、クルトピア岩谷の塗装改修工事でございますとか、空調の機器更新工事に取り組みまして、利用者の方に快適な状況で使用していただけるような環境づくりに取り組んでおるところでございます。

今年度は、特徴的な2つのことを説明させていただきたいと思っております。

まず1つには、南北道の拡張、改修に伴いまして、国府公民館の建てかえの必要性に迫られているところでございます。本9月議会で、国府公民館の建てかえに向けて実質調査及び基本設計の費用を、補正予算として議決いただいたところでございますが、今年度後半、これからこの2つのことに取り組んでいきたいと思っております。

それからもう1つとして、府中市立総合体育館のほうで、ネーミングライツの導入をさせていただきました。これは、企業による社会貢献の場の提供と、施設管理運営経費の財源の確保を目的に、施設の命名権を公募するネーミングライツを府中市の施設として初めて導入したところでございます。太陽都市クリナーをネーミングライツパートナーに選定いたしまして、

10月1日から愛称をTTCアリーナに変更する準備をしているところでございます。メーカーのネーミングライツ料は60万円ということで、今年度は半期でございますので30万円ということになりますが、この経費は総合体育館の維持・管理経費に活用していきたいと思っております。こうしたことで、より施設の環境充実に取り組んでいき、利用者の方に快適なサービスを行ってきたいと思っております。

また、先ほども少し教育長のほうにも触れていただきましたが、桜ヶ丘グラウンドにつきましては、平成29年度スポーツ振興くじ助成金の交付を受けることができましたので、これを費用に充てて大規模な改修工事を行いたいと思っております。

来年度の予定でございますが、先ほど申した国府公民館の建てかえについて、今度は実施設計に入りまして、12月ぐらいからは現公民館の取り壊しにかかっていきたいと思っております。

また、平成27年度に耐震診断を行っております、出口公民館、久佐公民館については、避難所にもなっているということもございまして、これは今後財政課との協議をしていかなければいけないことで未確定ではあるんですが、まず、平成30年度については、出口公民館の耐震設計を実施するために、財政の確保に努めていきたいと思っております。いづれにいたしましても、施設の老朽化というものが進んでいる中で、公共施設等の維持管理計画等々の整合性を図りながら、計画的に進めていきたいと思っております。

総合的に、生涯学習の事業の推進に関しましては、現在は変化の激しい社会を考えますと、学校教育段階はもとより生涯を通じてみずからを高めていくことが大変重要であろうというふうに考えております。そのような生涯学習の視点からも、府中市の子供たちの未来を考えまして、学校教育課と連携しまして、生涯学習と生涯スポーツの推進を通して、子供の教育環境の充実に取り組んでいくことを念頭において、全ての事業に取り組んでいきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

戸成市長

それでは、説明いただきましてありがとうございます。

先ほども教育長から言われたように、府中市の教育は非常に

いい方向で来ておると思っております。備後国府の問題、あるいはスポーツ活動、それから先ほど課長さんらが言われたように、8項目について説明をいただいたわけですが、これを見まして何か聞いてみたいということがございましたら、一つ御発言をお願いしたいというふうに思っております。

田中委員

田中です。よろしく願いいたします。先ほどいろいろな項目を通してエアコンということが出てきました。10年ぐらい前は、和式トイレを洋式トイレにするのが論外だといったように、エアコンつけたら夏休みが短くなるよとか、エアコンをつけること自体が全然話には出てこなかったんですが、今年あたりからエアコンの話が出てきたりしました。やはり授業時間数もふえていくので、今の夏休みの期間では、到底先生も目一杯になってきて、その授業時間数を確保するためにも夏休みを短くして授業に充てていくということも考えれば、昨今の環境からして、エアコンを1年、2年ではつかないかもしれないんですけど、やっぱり考えていていただきたいなと思っております。エアコンの県内での普及率といいますか、一時天井扇は府中が結構早くて、福山市は天井扇がついてなかったという比較をしてはいけんですけど、一気にエアコンという話が出てきましたので、そのあたりの県内の状況とか、その辺のことをお教えいただければと思うんですが。

大和課長

それでは、県内の状況というものでございますが、普通教室ということで、少し県内の状況を説明させていただきます。

全国調査といいますのが、3年に一度、文部科学省のほうで調査をされるところでございます。広島県につきましては、普通教室の設置率が45.2%という状況です。平成29年4月1日の状況でございます。これが3年前にさかのぼりますと、21.2%という状況でございます。ということで、約3年間で設置率が倍以上になっているという状況でございます。県内の各市の状況、細かいところはこの場で対応できておりませんが、一番設置率の伸びの大きい広島市が、44.5%から95.4%。三次市が10.4%から44.8%。庄原市が22%から69.1%と。特にこういったところが大きく設置率の比率が伸びているという状況はございます。ただこれは、先の市議会一般質問の部長答弁の中でありましたが、重点をおい

て取り組んだという施策の一環ですので、そういった中で、耐震化がこの3市ともほとんどが耐震化が終わられた市でございますので、次に環境整備をどこに重点を置いて図っていくかという観点からエアコン設置に重点を置かれたんだろうというふうに認識をしております。

以上でございます。

戸成市長 これが結構高くつくんです。ほかに何か。

高橋委員 学校の施設も含めてもそうですけど、府中市は県内で気温が割と高い地域でありますし、今後予測できない災害というのも結構起きやすい状況になってきています。そういうときに、学校の施設のもう一つの役割、避難場所として活用されることになると、特に夏場の災害というのは結構つらいですし、そうした方々を受け入れる場合でもエアコン設置というのは一つ考える方向でいかれたほうがよろしいのではないかなと思います。今おっしゃられたように結構高くつきますから、その辺の予算面が懸念される場所であると思うんですが、比較的優しい財政の中でできる方法というのを考えていかれるのも一つの案かなというふうに思います。府中市も企業がございますから、そうしたところで協力を構築できるようなものに持っていくとか、また飛躍したことを言いますと、ふるさと納税ならぬエアコン設置納税みたいな形も考えてみるのも一つの案かなと思いますので、そうした状況の中で先ほどもありましたけれども、授業時間がふえるのであれば、ふやさざるを得ないのであれば、そうしたことを考えていくのも検討の余地はあるのかなというふうに思いますので、いろいろな状況を加味しながらエアコン設置もひとつ前向きに考えていただければというふうに思うところであります。

戸成市長 ほかに何か。

骨田委員 小言を1件でございます。

エアコンというのは考えていかなければですが、今後授業数が増えるのは間違いないんですね。この増えるのをどうするかという、これはもう全国的に本当考えるところで、その一つの案として、長期休業を少し短くしてでもそこへ持ってくるほうが、例えば教職員の勤務の状況を踏まえたときには、一つのやり方かなというのは多くの自治体で考えられているような状況

もある中で、そうしたときに教育環境をどういうふうに整備していくかというのは、大きなポイントになるのではないかなとは思っています。もちろん、その長期休業中に持ってこなくてもできないことはないはずですけども、そうするとますます子供と先生の関わりが少なくなってくる。通常の勤務時間が毎日6時間あって、部活動もあってというようなことになってくると、本当に子供と先生方が一緒になって顔を突き合わせていろいろなことをする時間にしてもないし、先生の研修時間も十分とられないしとなったときに、今度は子供たちの学力向上にどうつなげていくのかといったときには、なかなかそういうやり方も難しいのかなということ、教育委員会の内部でも考えているところではあります。これは、総合的な判断の中でそこら辺は考えていただくことしかできないですけどもということになります。

戸成市長　そうですね。予算がないところでございますので、府中はお金がないところでございますが、それでも国の補助金というのは大体3分の1ぐらいですよ。それで御承知のように、トイレの改修を今やっていますからね。一定程度方向が見えてくるということになりましたら、次には空調設備というようなことが必要になってくるかなと。それと、私がいつも言っておりますように、英語教育をやると。それと、道徳教育をしっかりやるということがありますからね。やはり、授業時間が足りなくなるということで、そういう意味では必要性は感じているわけでございます。何しろ、これから取り組んでいかなければならない大きな課題であろうというふうには感じております。特に英語教育はすばらしく進展していると私は感じております。これはもう府中市の特徴だと十分言えると思います。

また、道徳教育がこれから本格でございますけれども、大分前から、私は市議会議員のときからもうずっと道徳教育をいつていますので何かピンとくるような気がするんですけど、これを少し充実して教科書化ということは教科ですね。いうふうな形になってくれば、かなり進展するだろうというふう感じておるところでございます。

英語教育については先ほど言いましたが、ALTの人数をふやすとか、あるいは英検も充実して、府中市の中学校を卒業し

た子80%ぐらいは、英検3級の資格を取っておこうというぐらいの目標を掲げていただきたいというのが私の願いでもございます。これから皆さんがどう努力をしていただけるかということに尽きると思います。それと、学力が非常に各校伸びておるといふふうに聞いております。よそよりは2ポイントから6ポイントぐらい高いというふうなことは、非常に評価しなければならないと思っております。この学力が日本一の学力というぐらいの目標を持っていただければ、非常にすばらしいと思います。府中と云ったら学力がすばらしいというふうなことをしてもらいたい。この前英語教育と相まって、英語教育が大体方向としてはかなり進んでおりますし、今度は学力が日本一になるというような目標を持ってもらいたいというのが、私は前から思いよるんです。本当のところを言いますと、日本一を目指すという、こういうことが何か目標を持って挑戦するというような気持ちが欲しいと思っております。これは、私見でございますけれども、できれば英語教育、あるいは道徳教育、そして設備については空調設備ですね。年次計画。一度ではできないですよ、どっちかという。府中は銭がないですから、年次計画で少しずつ充実していきたいというふうに思っておりますので、とりあえず国府小学校のトイレが完成すれば、その次はこういうエアコンとかいう空調設備ですね。少しずつ充実していきたいというふうに思っておりますので、予算要求をその都度一つお願いをして、頑張っていきたいというふうに思っております。補助金制度というのもしっかりと活用して、あるいはもし可能であれば過疎債なんかも利用できるものならして、少しでも手助けができればしていきたいというふうに思っております。

30年度の予算編成については、もうぼつぼつ始める状況でございます。府中市の財政が御承知のように厳しい状況でございますけれども、教育行政につきましても施策については、できる限り実現していきたいというふうに考えておるところでございます。市民の皆さんに納得していただけるような事業を実施することはもちろんのことでございますが、時代の流れに沿った事業展開も必要になるというふうに思っております。府中市の教育は、全国でも注目されております。ちょっとフライ

ングいたしました。やはりこの「学力日本一」というようなことを目指して、ちょっとオーバーですけれども、そういうふうに今注目されておりますが、成果も上がっておりますので、しかも教育については「府中市は力を入れておるよ」と全国に発信できるものなら非常にいいというふうに思っております。引き続き、次世代を担う子供たちの育成に力を注いでいきたいと考えております。

ほかに何か御協議いただくことはございますか。何か意見が。古川先生、何かありますか。

古川委員 市長さんが今全てまとめてくださったので、よろしくお願ひしたいと思ひます。先ほど「ちょっとオーバーですが」と遠慮されておっしゃいましたが、僕らのほうとしては日本一を目指さないとそれに近づいていけないと思ひます。だから、できるだけ教育長さんと連携しながら府中市の教育を充実したものにしていきたいと、そういうふうに考えております。よろしくお願ひいたします。

戸成市長 骨田さん、何か。

骨田委員 教育についてのほうは、本当に皆さん、意見を聞かせていただひて私も同じ気持ちでおるんですけれども、備後国府跡の伝統と文化の継承についてのほうですけれども、常々せつかく史跡の答申をいただひて史跡指定も受けたということで、それを活用していただきたいと思うんですが、活用できてはいきつつあるのかなというふうな市民の感覚ではそんな感じがします。まだまだ「備後国府」というのが市民の中では「府中といえば、備後国府よね」というような感覚はないようで、いろいろ個人的には考えてみたんですけれども、例えば備後国府があった時代の物語をつくってみるとか、それはプロの方に頼むのではなくて、公募するとかそういう形ですとか、市民も参加している気持ちが強いんじゃないかなと思うんです。そこからいいものをよりすぐったものをまたどんどん活用して、例えば竹原市さんのようにアニメ化するとか映画化するとか、いろいろなことがつながってくるんじゃないかなと思ひます。そういった若者に近い文化の中で活用していくというのが、今一番広げるのにはいいんじゃないかと。やっぱり若者の中にSNSというのがすごく根づいていまして、そこに乗った場合は非常に拡

散が大きいので、一旦火がつくと異常に全国に広がってとてもPRができると思いますので、そういった面でのアイデアというのもしっかり考えていただける人材が採用していると思います。

戸成市長 今、国府の問題についてですが、教育部長、何かありますか。
栗根部長 私ですか。国府の件についてですよね。実は、2月に国府のシンポジウムをやって、市民の方にもマニアの方が多かったんですけど、児童・生徒が参加したり、府中市出身のT-BOLANのボーカルの森友嵐士さんに来ていただいたりして、非常に盛り上がりました。その中で、骨田委員からSNSを使った拡散とか言われたのですが、森友さんの力を借りてプロモートしていきたいという気持ちはありますが、いかんせんやっぱりこれは予算が数百万どころじゃない可能性があるんで、民間の力を借りて今やっていこうかという取り組みをしております。また、備後国府の密語橋が恋物語につながるということもあるので、これについても中須町でそういう物語を実際にしてもらっちゃるところもあるので、行政がこれまでやっていた啓発活動を繰り返していたのでは、なかなか市民全体には広がらないので、ぜひそういう骨田委員がおっしゃったようなことも取り入れつつ、もっと広げていかなくはないという認識はいたしております。

戸成市長 何か企画すればいいですね。
骨田委員 例えば、物語みたいなことでしたらそういう方面は多分図書館とかが強いのと思うので、図書館の力をかりるとか、そういった形で市の全体的な投入数が行えれば強いと思うんです。

戸成市長 ちょっと考えてみて。
教育長 さっき英語教育についても随分説明させてもらったんですけども、本当いろいろなことを取り組んで、その子供たちの意欲も随分高まってきているだろうと実際思うんです。それが、テストの結果にも少しずつ出てきているかと思いますが、その市全体で本当にこの英語を盛り上げていくとなると、やっぱり小学校段階より、もっと早い時期からALT等と関わって、今でも夏休みには数日は行っていますが、保育所や幼稚園段階でしっかりそういった者と関わって、それが小学校でつながってくる。中学校、そして高校でも勉強しますが、大人のところで

も何かそういうかかわりがどんどん広がってくると、市挙げての英語という、充実を図っていけるんじゃないかというのが一つあるんです。となると、財政が関係するのですが、ALTとかそういう英語が堪能な人をしっかり活用しながら、市内にもたくさんおられると思うので、そういったこともできればいいのかな。もう一つは、今年スカイプを使って海外の人と直接会話をするというのをやってみたんですけども、随分子供が食いついてすごく興味を持ちました。初めは照れくさかったようですが回数を重ねたら、自分からどんどん話しかけていくような、そういう姿を見ました。一足飛びに海外へ子供たちを連れて行ってというのを、ほかの自治体でもやっておられますが、予算も厳しい中で、今のようなスカイプを使って他の国の子供たちと交流を図るとなると、そこまでの予算は要らないのかな。効果もかなりあるのかなという気もして、そんなことにも教育委員会としては取り組んでいければいいのかなというのが次の目標、狙っているところではあるんです。それで、少しずつ英語教育も広げていきたい。今の状態で終わるのではなく、どんどん広げていきたいという思いを持っています。

それから、日本一の学力、これはもう当然、やっぱり日本一になりたいのはどこもそうですよね、自治体として。そのためには教育委員会として何ができるのかを事務局としてはしっかり考えていかなければいけないと思うんですけども、もちろん学校の実情も踏まえながらということになったときに、どちらかという今学校は、先生方の努力の部分で頑張ってくれているという、その中に当然府中市としては小中一貫教育をやって、そこで新規の講師もつけていただきながら、指導の工夫もしてもらっているわけで、そういったところにもしっかりと踏み込んでいきながら、さらに子供たちの意欲を高めるために何ができるのかというのは、考えなければならぬかなという気がします。

それと合わせて、全国調査の結果を見たときに、学校教育は当然大事ですけども、家庭での子供の生活、そこがやっぱり学力あたりにも主につながってきているというのは、よく聞くことなんです。ですから、当然家庭教育と言いますか、安定した家庭生活の中で子供が育まれていくところを考えていかね

ばならないのかなとしたときに、教育委員会だけでなく、福祉関係の局の女性こども課も含めて、連携しながら家庭教育を考えていかなければいけない。そういう中で、学力にもしっかりとつながっていくんじゃないかと思imasuので、また市役所全体で考えていきたいと、このように思っています。

戸成市長

なかなか範囲が広いようで。前を向くのはなかなか大変なことになっていますね。私は一極集中ではないですが、とにかく学力を伸ばすということ。日本一の学力をつけるというその先生方もそうでありますし、日本一になるためには何ができるのか。それから、教育委員会、いっぱいありますね。自分で教育委員会として何ができるのかということ常にとりながら、とにかく日本一になるぞと、学力をすごく伸ばすぞという意欲が非常に大事だというふうに思います。そこら辺が家庭教育、あるいは社会教育を何もかもとなると、ボヤっとしてしまう。なかなか焦点が絞られなくなる可能性もあるということですから、できればその辺についてしっかりと教育委員会は教育委員会として議論を、そして学校の先生のほうで私に何ができるかというのをしっかりと見詰めてもらおうということが必要ではなかろうかと思imasu。

高橋委員

市長、よろしいですか。

戸成市長

はい、どうぞ。

高橋委員

日本一を目指すために府中で英語スピーチコンテストとか、また英会話コンテストをやると。府中から全国に行って日本一を目指してもらおうと。しかも、府中で行う場合はやっぱり府中の自然とか歴史、産業、あるいは暮らし、いろいろなものを対象としたテーマの中から選んで、これだけリスニング、スピーキングは県内トップという成績が出ているのであれば、そうした英会話スピーチコンテストなんかも非常におもしろいんじゃないかなと。

戸成市長

全国で何番ぐらいになれたから奨学金を出してというようなことは、昔はあったんですけど、今はどうですかね。そういうようなこともしっかりと研究していかないと。逆に外国の人が日本の言葉でやっておりますように、日本の人が外国の言葉でスピーチをやるというような。よく聞きますと、非常にいいことですよね。これは、そんなにお金は要らないですかね。し

っかりと研究していただいて、学校だけじゃなく一般の人も含めて。府中市では、企業が外国へどんどん出ていっていらっしゃるんです。そういう面では府中は非常に強いと思うんです。恵まれていると思うんです。ですから、そういう方をしっかりとお願いをして活用していくということになればいいんじゃないかなというふうに思います。

高橋委員 あともう1点すみません。備後国府の活用方法の一環として、はじまりの広場をせっかく整備され起点となるところですから、これに付随して府中市歴史民俗資料館ですか。これを町中に移設する方向も考えていただいて、関連性を持たせたPRとか、いろいろな状況づくりを今後考えていただいたほうがいいんじゃないかなと。これも、移設になると費用がかかりますから、そう簡単にはいかないと思いますけれども、やはり教育委員会が歩くマップをつくられたりしても、ぽつんと別のところにあったのでは、有効活用という意味では非常にもったいないので、町中におろしていくとまた非常に資料館の活用度も上がってくるでしょうし、足を運ぶ方もふえてくるのではないかなというふうに思いますので、その辺を含めて今後を考えていただければと思っております。

戸成市長 総務課長さん、何かいろいろ指示・検討していただければと思うので、その後どういう方向になりますか。

大和課長 資料館ですか。資料館の移設につきましては、現在南の丘にあります資料館の移築が可能かどうかの協議を、予算づけを新年度いただいておりました。6月から8月にかけて専門業者に、移築に耐えられるかどうかという調査はしていただき、移築は可能だろうと。ただし、耐震化とか、いろいろな部材がもう老朽化いたしております。そういった面で、補強・改修は当然必要。部材の移築は可能という結果はいただいておりますが、移築場所については具体的なところは今はまだ出ておりません。

戸成市長 あれは、どのくらいかかるものですか。

大和課長 移築ですか。移築の金額については、そこまでのまだ見積もりというところまで至っておりません。

戸成市長 3億ぐらいかかる。

大和課長 それはちょっとわかりません。ただ、移築場所は課題だろうと思います。ですから、ある程度の計画も含めて、先ほどあり

ました文化財の保存活用計画の策定とあわせて、適切なところに移築したいという思いもあります。まず、場所をクリアしないといけない。

戸成市長 古川委員さん、何かございませんか。

古川委員 府中市がそれぞれの課で非常に積極的にやられているということが、この中へ入ってすごくよくわかって、自分としてはいい体験をさせていただいていると思っています。特に、スポーツ活動の充実、年齢を重ねるほどに大切になりますし、結果としてあらわれてくるのではないかというふうに感じております。

以上でございます。

戸成市長 これから新年度の予算編成に取りかかる準備をしておるわけですが、今後皆さん方の御意見を聞きながら、しつかりとできるものとできないものと将来できるものというふうな3つの原則というものがありますから、その辺でやっていきたいと思っています。

何かほかに。もういいですか。

田中委員 英語教育という意味では、ウェブを使ったリアルタイムコミュニケーションという、非常に期待するものでありまして、帰国されたALTの方とかも何らかの関わりをずっと持っていて、県内の高校とか姉妹都市とか、そのあたりとも交流して、いろいろな工夫をして、生涯学習という意味でずっと全市的にいろいろな英語教育を取組んでいってほしいですね。その中から地元が見えてきたり、自分たちの国が見えてきたり、自分の仕事が見えてきたりということにもつながっていくと思いますので、そこを一つ。細かい点になりますが、学校訪問等をさせていただきまして非常に古くてもいい本もあるんですけど、やはりもう何十年も前の本ですとか、何となく内容的に新しく読みたいと思える本が増えていったら良いのではと思います。子供たちが本を1カ月に何冊読んだとか、いろいろな取り組みをしていますので、企業からも寄附していただいたりということはあるんですけど、もう一回見直していただいて、本当に必要な本はどのくらいの規模なのか、府中市独自として考えていただければと切に思います、予算がかかりますが。

戸成市長 寄附をたくさんしてもらおうように。実物でもいいですから、

本を寄附とかいうのは割合できるんじゃないですかね。昔は、古本市とかいうのをやったりして、そこで新しいいい本があれば学校へ持ってかえってというようなことも聞いたことがありますけれども、そういう工夫をして、企業が非常に今は景気がいいようですから、相当もうけていらっしゃる部分もあるんだろうと思いますので、それをうまくお願いをして何とか蔵書をふやすとかいうように、図書館へしっかりと蔵書をふやしていくとかいうようなこと。それは各企業にお任せして、100万円ずつぐらいどんどん毎年入れてもらうというような、そういう形でやっていくという方法もあるだろうと思います。意外に教育とかいうようなことになると、皆さん割と理解いただけるというふうに思います。ですから、これから工夫をしてやっていただければいいなど。市から全部というよりも、その前にいかに市民の皆さんから、あるいは企業からお金を集めることができるかという、品物でもいいですから、そういうふうなものを集めるようなそういう方策を練ることが最短距離かと思えます。どうですか。

骨田委員 新しい本をふやすのも非常に大事ですけど、その本をどうやって選書するかというその選書の目を持っている人材というの、各学校に配置をしていただくというのも大事なんじゃないかなと。

戸成市長 司書ですか。

骨田委員 そうです。

戸成市長 とりあえず図書館をふやす。

骨田委員 そうですね。図書館にはプロフェッショナルな方がいらっしゃいますので。

教育長 今、市でも5名でしたか、巡回で来ていただいているので、毎日というわけにはいかないんですけども。

先ほど市長もおっしゃいましたように、企業からもかなり蔵書の寄附をいただいているような状況であって、本当にありがたいなといつも感謝をするばかりです。

骨田委員 やっぱり、本を読む子は特に学力が高いんじゃないかなと思います。

教育長 そうですね、つながりはありますね。

戸成市長 国府小学校が有名な。

教育長 作文ですね。幸い府中市の小学校は、読書感想のほうでも継続的にいただいているような状況でありまして。それだけに新しい蔵書もしっかり読ませてやりたいというのもあるんですけど。

戸成市長 それぞれ皆さん努力していただいて、何とか予算のない中で工夫していくということも大事だろうというふうに思います。一つよろしく願いいたします。

 それでは、以上をもちまして、平成29年度の府中市総合教育会議を終了いたしたいと思います。ありがとうございました。

16時55分 終了